

① 斎藤祐美

びん沼の生みの親
治水翁 斎藤祐美

地域を洪水から守る

明治43年の大水害を機に進んだ治水事業を具議として主導

「斎藤祐美はどういう人だったのですか。」

びん沼は、荒川の河川改修で取り残された旧荒川の一部である。荒川の河川改修は大正期から昭和20年代にかけて、洪水対策として蛇行していた川筋を直線化する形で実施された。そして、その河川改修、治水事業を推進したのは、旧荒川（びん沼）のほとりに実家のあった斎藤祐美（1866—1943）であった。斎藤祐美については、知られていないことが多かったが、河川に関する市民運動家の大石昌男さんが研究会を組織し、2007年に『荒川の治水翁 斎藤祐美』という本を出版した。大石さんに、祐美という人物、その功績などについてお聞きした。

た代々医者の家系です。祐美も、今の東京医科大学の前身で済生会という塾に行っていたのですが、板垣退助の自由民権運動に傾倒します。

今で言う学生運動です。卒業と同時に

時に民権運動の記者になります。ところが卒業した年に洪水で家も流される状況を見て、治水事業を志し、政治家になることを決意。

明治32年、県会議員に立候補し当選、それから昭和11年までずっと県議をやります。

「実際に荒川の治水事業に取り組んだのはいつ頃ですか。」

大石 県議になってしばらくして明治39年、祐美は議会をリードして国に対して「荒川放水路開削の建議」を行います。当時「議会は全員賛成はしたが、本気になってるのは自分一人だった」と、祐美は後に語っています。「祐美の大風呂敷」などと揶揄されました。だが、この建議は先見の明がありました。たまたま明治43年に史上最大と言われるとてつもない大水害がおきます。今国土交通省が「百年に一度の洪水に耐える」とか言う時に基準になるのは、昭和22年のキャサリン台風とこの明治43年の豪雨です。明治政府はこれに驚き、半年後に荒川放水路開削が国家プロジェクトとして出し、大正元年からは荒川放水路建設工事が着工となります。

この時、祐美は埼玉県側



斎藤祐美の頭彰碑



治水橋

を代表して折衝にあたり、下流と一緒に上流もやらな
いとだめだと主張します。
その前提として、治水会の
統合がありました。それま
では埼玉治水会と東京治水

会が別々にあった。彼が会
を統一させ東京埼玉連合治
水会を組織して荒川の治水
事業を進めていきます。そ
して上流の埼玉県区域は遅
れること7年後の大正7年

川を真つすぐにする改修

えは祐美の実家のあった飯
田新田は、旧荒川の東側に
位置していますが、新たに
東側に直線の川を通し、飯
田新田地区は堤防の外（堤
内）になり洪水から守られ
ることになりました。ただ、
新しい川筋に土地を奪われ
た二ツ宮地区からは反発を
受け、祐美は次の選挙では
一度落ちていきます。

11年頃には現在の堤防位置

大石 旧荒川が半月湖とし
て残ったのがびん沼です。
新しい荒川います沼の間に
は、飯田新田、塚本町、湯
木町が、大宮市（現さいた
まし市）の飛び地として残っ
てしまいました。
―荒川改修工事はいつ頃ま
で続いたのですか。
大石 部分部分を少しずつ
進めていますので、時期が
はっきりしません。昭和

も荒川の改修で馬宮村が分

つけられたそうですね。
大石 祐美は、「荒川の治
水翁だ」と自分で言ってい
たようです。治水橋は昭和
9年に建設され、最初は馬
宮橋の予定だったが、祐美
の功績をたたえ「治水翁」
の名から取って変えたわけ
です（元大宮市長の新藤享
弘氏の父元吉は県議でこの
思い出を語っている）。
治水橋の建設は、そもそ

治水橋の名は祐美にちなんでつけられる

―荒川の河川改修の結果、
びん沼が生まれたというこ
とになるわけですか。
大石 彰功碑は昭和26年に
治水橋の堤防の上に建てら
れました。祐美は昭和11年
に県議をやめ18年に死んで
います。治水橋が現在の新
しい橋に架け替えられる際
邪魔だということで平成7
年に現在
の場所に
移設した
ようです。
―治水橋
の名は斎
藤祐美に
ちなんで

から改修事業が着工となり
ます。これが祐美の最大の
功績ではないかと思えます。
統合したことで上流も同時
進行ができたのです。
―改修事業は、蛇行してい
た川を真つすぐにするとい
うことだったのですか。
大石 そうです。川の蛇行
を直線にしない限り洪水は
なくならないと、地元では
皆思っていたんです。たと

は、舟運には不都合になり
ますね。
大石 その通りで、舟運に
は蛇行して流れが緩やかな
川が適しています。河川改
修は、荒川の他、新河岸川
なども同時に進められまし
たが、舟組合の反対にあっ
ています。

が確定しています。
―今治水橋のたもと近くに
斎藤祐美の彰功碑が建って
いますが、その頃にできた
のですか。
大石 彰功碑は昭和26年に
治水橋の堤防の上に建てら
れました。祐美は昭和11年
に県議をやめ18年に死んで
います。治水橋が現在の新
しい橋に架け替えられる際
邪魔だということで平成7
年に現在
の場所に
移設した
ようです。



齋藤祐美の生家跡地と大石さん（左）

断されたので、その罪滅ぼしとして、祐美が企画したとされています。後に地元への最後の奉公だと語っています。

浦和の事務所に住み子をもうける

—祐美の実家は残っているのですか。

大石 斎藤家は、飯田新田でも最も目立つ高台、

「水塚」（みづか）上に建っていました。少々の洪水があっても安全な場所でした。私も何回かお邪魔したことが

あります。それが、最近行ってみたらなくなっていました。崩して平地にして売りに出したんでしよう。

—お墓は。

大石 びん沼沿いにりっばなお墓があります。墓石に「大宮市名誉市民」と刻まれています。私たちは、毎年12月にこの前で墓前祭を行います。



齋藤祐美の墓

—子孫の方はどうされているのですか。

大石 祐美は馬宮の飯田新田に家がありました。が、県議を長くやりましたので浦和に事務所を構え、馬宮には盆と正月、冠婚葬祭らしき時にしか戻らなかった

そうです。祐美は、結局馬宮の実家には帰らず、浦和の事務所で78年の生涯を終えることになりました。

浦和では県議のかたわら「治水庵」と称して医業も営み、駅前にあった伊勢屋爾旅館という旅館を接待などに使っていました。そこにパンツマ

（坂東妻三郎）の姪にあたる松代という美人の娘がおりました。祐美は松代をみそめ6人の子を設けました。そして、長男の齋藤修氏は、蕨市で父の医業を再建します。相当な人物で日本医師会の副会長にもなりました。この医院は、「治水会・齋藤クリニック」として残っています。

務所の人が、「蕨の齋藤医院はひよっとすると祐美の子孫かもしれない」と言われたので、訪ねて行ったのが始まりです。平成13年のことでした。

すると、ちょうどその4か月前に、祐美の息子の齋藤修さんが亡くなったばかりでした。これは急がなければと、何人かで研究会を立ち上げました。そして平成19年、荒川上流、下流河川事務所の助成をいただき、『荒川の治水翁・齋藤祐美』の出版にこぎつけたわけです。

—いろいろ調べられて齋藤祐美の功績は何であったと言えますか。

大石 洪水の被害から地域を守ったということです。くねくね蛇行していれば、1週間たつても水がひきません。それをなすいうる政治力があつたということでしょう。びん沼は、祐美の置き土産ですね。それが今釣り人のメッカになっているわけです。

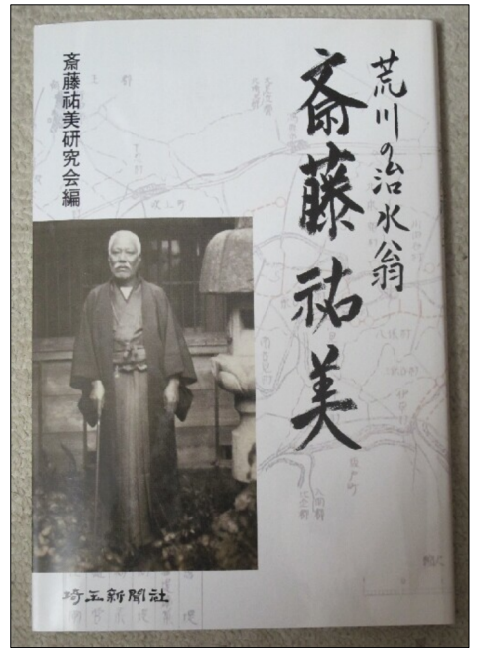
—大石さんが祐美に関心を持ったきっかけは何ですか

大石 川関係の集まりなどで、川の研究の第一人者と言われる関東学院大学（現名誉教授）の宮村忠という方が、「だれか齋藤祐美を研究しないか」といつも言っていたんです。ある時、国土交通省の荒川下流河川事



びん沼は祐美の

置き土産



大石さんが出版した『齋藤祐美』

◇ びん沼の存在は、釣り人を除くとあまり知られていないが、自然の景観がそのまま残り、静けさと水と緑のマッチした隠れた癒しスポットである。

よく考えると、このような大きな沼がなぜここにあるのか、疑問が生じるはずなのだが、普段は意識に上らない。ここは、以前は荒川の本流だった。そして洪

水対策として、川の流れを人工的に変えた。その結果、残された古い川の部分がびん沼である。

そして、この荒川の河川事業の立役者が、県議をしていた地元の齋藤祐美という人だった。

大石さんの調査とご説明によって、地域の歴史とそれに貢献した偉人の軌跡がよくわかりました。

(金子豊治郎)

が。大石 母体は「戸田の川を考える会」。戸田市内の川をきれいにしようと、29年前に作ったNPOです。それと「埼河連」（埼玉県河川環境団体連絡協議会）。埼玉県内に川関係のNPOは506団体あります。それをまとめる活動もしています。また、水質改善とか排水、下水などの問題を取り上げる「東京湾と荒川・利根川・多摩川を結ぶ水フォーラム」というNPO（代表理事）の活動、浄化槽問題の運動は全国的に展開しています。河川環境一筋です。

たのは。大石 30代からいわゆる公害反対運動に関わってききましたが、私の家のそばに、菖蒲川という川があり、これが天下一汚い。まずこの川をきれいにしようというのが、川に取り組んだきっかけです。

「元々サラリーマンだったんですか。」

大石 私は新日本製鉄で組合の専従書記長をしていました。定年より2年早く早期退職しまして、芝浦工業大学で河川環境の講座があったので4年間勉強して、河川の問題に本格的に取り組むことになりました。



釣り人でにぎわう現在のびん沼

(齋藤祐美の「祐」の字は、正しくは「示」偏ですが、パソコンに書体が不在のため本記事では「祐」を用いています。)